

## 第10回蓮田市政策研究会議会議録

開催日時	平成27年 1月13日(火)
	午前11時00分 開会 午後 0時 00分 閉会
開催場所	蓮田市役所 202会議室
会議経過(議事の要旨)	
1 開会 金子リーダーから意見交換会の開催趣旨説明	
2 子育て支援サークル会員の方々からの意見の概要 ・市内に子育てをしながら働く場が少ない。働く場を求め、かつ保育できる環境を求めて蓮田市から転居してしまう。 ・子どもが3人いても祖父母と同居していると保育を受け入れてもらえない。若い人にやさしくない。 ・JRの終電が早い。大宮駅からタクシーを利用すると、料金負担が大きく、大宮以南へ転居してしまう。 ・市街化区域を拡大し、企業を誘致することにより働く場の提供と財政を豊かにする施策が必要。 ・西口の再開発が遅れ、にぎやかさがなく、住む魅力・意欲がわからない。 ・ベビーカーなどの移動時に歩道が狭く、危険。 ・蓮田市は南北に長い地形であり、親子で利用する児童センターや子育て施設が近くにない。 ・黒浜地区に公園が少ない。 ・乳幼児への予防接種が多いのは仕方がないが、高負担となっている。手当等の支援を望む。 ・市役所の土日開庁を望む。 ・イベントが土日に集中している。生活スタイル・勤務スタイルがさまざまであり、平日の開催も考えてほしい。 ・10月～12月に仲間保育を開催したが、施設の確保が大変だった。また、情報が届かない人たちを考慮しなければならない。(場所さえあれば支援スタッフは確保できる。) ・昼食を摂れる施設が必要。 ・専業主婦の子育て負担を考えた支援制度に取り組むことが重要。 ・蓮田市は、住宅を取得するには土地が高いため、周辺へ転出してしまう。 ・助け合いながら親子・兄弟との近居をする人が多い。 ・地域の学校が廃校とならないような人口増加策を求める。(市街化調整区域の人口減少対策) ・広報・ホームページ・SNSなどの多用途の情報提供が必要。 ・若い人、子どもたちがドキドキ・ワクワク感のあるイベントの開催を望む。(露天商の活用) ・子育ては一時的なものであり、魅力のあるまちづくりをしないと定住化とならない。(高齢者はもっと便利な所を求めて転出してしまう。病院・交通機関・買い物などの利便さ) ・新住民は蓮田への愛着がないため、転出の判断が早い。 ・子育て世代のニーズが多様化しているため、きめ細やかに対応しないと満足が得られない。(満足度が人それぞれ)(通り一遍の対応では効果が得られない) ・市は施設を提供し、子育て支援グループに運営を任せる協働の社会づくりをしてほしい。 ・人口が少ないことは、人付き合いなどに余裕がある。(教育環境にゆとりがある) ・人の行動や生活の場が拡大し、地域のコミュニケーションがとりにくくなっている。 ・落ち葉の悩みなどもあるが緑豊かなまちをアピールする割には、街路樹など緑が少ない。(田園都市としてアピールしては) ・ショッピングモールがあれば便利。	
◎子育て支援に取り組むサークル、人材は豊富であり、活動する『場』の提供が課題となっている。また、施設の運営方法を検討する余地がある。	
◎子育て期間は、人生の中で限られた時期であり、永住するための様々な方策が必要である。その取り組みにより、蓮田に愛着を持たせることができる。	
◎専業主婦として子育てに取り組む人も含めた情報提供が必要。	
◎近居による子育て世代への支援が求められている。(行政サービス・経済的支援・情報など)	
◎JRの始発が早まったが、終電を遅くする取り組みを続けなければならない。(市外への通勤などの利便さを確保)	
◎着手している公共事業の早期完成により、基盤整備に更に取り組む必要がある。	